

して、10月18日、山口・島根地区の信徒大会が行われるので、その場を借りてバザーを催すことになった。

フィリピン側にもこのことを伝え、バザーに参加してほしいと呼びかけたところ、現地で働くシスターを通して、

援のために作られたカードとTシャツ等。本当にたくさんの手作りのものが、フィリピンの人々から寄せられた。そして、私たち日本人側の、フィリピン旅行に参加した人々も、ドラエモンのキーホルダーやパジャマ入れ等々、たく

な一歩は、小さなグループの出發であっても、キリストの差し出される手に、私たちの手をそえて、私たちにも何かができるのだという実感として輪が広がっている。

## フィリピンとの連帯

藤屋 紀子

フィリピンで働いておられるシスターは、顕微鏡がほしいとおっしゃっていた。フィリピンの農村地区には、まだまだ結核患者が多く、シスター方はその母親たちに顕微鏡の使い方を教え、早期発見に努めているという。

たくさん品物が届いた。スラム青年グループの作った

皆さんの手作りの作品を送ってください。

私たちが繁栄と医学の進歩の中で、結核という言葉さえあまり耳にしなくなっていたが、シスターの話を思い出し何とかして、一台でもいいから顕微鏡を送りたいと考えるようになった。一つの方法と

ば、イサベラで働く日本人シスターたちが、農民に教えて作った、パッチワークのなべしき。未婚の母の家の人々が作ったカード、政治犯として捕われている人々の家族の支

私たちの、一台の顕微鏡をフィリピンに送りたいという小さい願いは、今、多くの人びとの善意と具体的な形で一歩を踏み出してきたような気がする。そして私たちの小さな

今まで私は海外で働く日本人宣教師の方々と、あまりかわりをもつことがなかったけれど、今回のことを通して日本もやがては、受ける教会から、派遣する教会へと変容していく時期がきているのだということを、少しわからせてもらったような気がする。そして信徒の側も、宣教師との連帯によって、その派遣の輪がより広がるよう理解と協力をする時期がきていることを学ばなければと思